

## 伊豆沼・内沼上流域ため池のオオクチバス駆除活動

ナマズのがっこう事務局長 三塚 牧夫

### 1. はじめに

「ナマズのがっこう」は伊豆沼・内沼の周辺を拠点として活動している団体です。周辺のかつての豊かな自然をとりもどし、水田の生態系を回復するため平成15年に結成しました。

平成16年に、シナイモツゴ郷の会の高橋清孝氏の講演でため池にオオクチバスが密放流されたことにより、ヌカエビやゼニタナゴ等の小型魚類や水生昆虫が姿を消し、農村の生態系が大きく崩れていることを知りました。

伊豆沼・内沼・周辺の水田の農村生態系の回復には、上流域ため池のオオクチバス駆除が不可欠であり、平成16年より駆除に取り組みできました。

その活動について、平成30年までの状況を以下に紹介します。

### 2. 伊豆沼・内沼上流域ため池のオオクチバス生息状況

平成20年に環境省東北地方環境事務所から、伊豆沼・内沼上流域には、大規模ため池170ヶ所中、34ヶ所にオオクチバスが生息している調査結果報告があります。

その後の「ナマズのがっこう」の調査で伊豆沼に注ぐ荒川流域のため池に2ヶ所の生息が確認され、36ヶ所になっています（図-1）。

その他にも、環境省東北地方環境事務所が調査していない小規模ため池が多数あることから、それらのため池にもオオクチバスが生息している可能性があります。

「ナマズのがっこう」では、大規模ため池の駆除を実施する際には、隣接の小規模ため池の所在を確認し、オオクチバスの生息の有無を確認し、生息している場合は同時に駆除を行うことにしました。

さらに、伊豆沼・内沼に直接排水されている水田の農業排水路と排水機場遊水池の駆除も行うことにしました。

### 3. 池干し実施のための水利権者や地域住民への説明

池干しにあたっては、ため池の水を利用する農家からの了解を得て行う必要があります。

ため池の管理者、地元区長等に説明し了解を得て、さらに関係者を集めて池干しの目的等を説明し、了解を得て実施します。個人所有のため池の場合は、所有者の了解を得て実施します。

「ナマズのがっこう」では、平成21年、平成23年にこの地域で全国外来種駆

除研修会（座学と実技）を地域環境資源センターと連携し開催しました。

また、多面的機能交付金の活動団体に出向きワークショップを開催するなど、地域住民の理解と協力を得ながら進めています。

#### 4. 伊豆沼・内沼上流域ため池のオオクチバスの駆除結果

オオクチバスが生息している 36 ヶ所の大規模ため池の駆除と大規模ため池、隣接小規模ため池の駆除を目標に実施してきました。

実施にあたっては、水系毎に上流部のため池から、下流の水田の農業排水路と排水機場遊水池までを一体的に行うことにし、一水系が完了したら次の水系に着手することとしました。

平成 16 年から私の居住地である八沢川水系から開始しました。

その後は、環境省東北地方環境事務所の調査報告書の成果に基づき、隣接地の太田川水系、伊豆沼に直接流入する流域、照越川水系、荒川水系の順に行っています。

八沢川の着手時は、環境省東北地方環境事務所の調査前だったので全ため池 15 ヶ所を対象としました。

平成 24 年までに、大規模ため池 5 ヶ所の池干しで 4 ヶ所に生息していて駆除をしました。

うち 1 ヶ所は次年度にも行い完全に駆除できたことを確認しました。

平成 30 年までは八沢川水系のため池では、オオクチバスの生息は確認されていませんでしたが、平成 31 年 4 月に八沢ため池に地元住民が設置した刺網でオオクチバス 2 尾が捕獲され、オオクチバスの移入の現実が確認された。

早速、令和元年 9 月に池干しを実施したところオオクチバスは確認されず、多くの在来種を確認できましたが依然として密放流が行われている実態を知り、行政機関の関与が重要である。

駆除活動を始めてから令和元年 12 月末の 16 年間で 76 回の池干し（大規模ため池 42 回、隣接小規模ため池 30 回、排水路 4 回）を行い、51 ヶ所のため池（大規模ため池 31 ヶ所、隣接小規模ため池 18 ヶ所回、排水路 2 ヶ所）でオオクチバスを駆除しました。

10 ヶ所のため池ではオオクチバスは、確認できませんでした。

当初目指していた、大規模ため池の駆除は 31 ヶ所が完了し、残すところ 5 ヶ所です。

環境省報告の大規模ため池 36 ヶ所（31 ヶ所済）の駆除が進まないのは、隣接する未調査の小規模ため池の生息調査と駆除を並行していることと池干しの時期が、かんがい用水期間終了後の 9 月から 12 月初めの時期までに限られることが要因です。